

息をのむ ラオスの美しい大自然 1960年に実在した日本人に焦点をあて脚本化



1960年(昭和35)、オリンピック開催を間近に控えた日本。終戦から15年が経ち、誰もが上を向いていた時代、人々は開発の熱気に充ち溢れていた。そんな日本を飛び出し、ダム建設調査の為、ラオスに渡った日本人がいた。将来の成功を夢見た青年の名は「川井」。しかし、川井は調査中の事故で消息を絶つ。当時、内戦中だったラオスの首都ビエンチャンでは戦闘が勃発、政府による川井の捜索も打ち切られてしまう。

2016年、急激な都市開発が進むラオス。家族とのすれ違いから故郷を飛び出したラオス人女性「ノイ」は、慣れない都会暮らしに埋もれていた。そんな、ある日、友人からのナムグム湖観光の誘いをきっかけに、1960年のラオスへと迷い込んでしまう。ゆるやかな川のほとりで二人は出会い、辺鄙な農村で、暖気な村人たちとの共同生活が始まった。

日本ラオス外交関係樹立60周年記念認定事業 国際交流基金アジアセンター「アジア・文化創造協働助成」事業

【後援】 順不同
日本国外務省
駐日ラオス大使館
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
川崎商工会議所
日本ラオス映画委員会



【協賛】 順不同
一般財団法人 神城文化の森 藤田財団、株式会社経理バンク、一般社団法人 川崎ラオス友好協会、山田長満
一般社団法人 日本ASEAN産業経済交流協会、日本工営株式会社、東洋ロザイ株式会社、株式会社ニコン、埼玉ラオス友好協会
横田順子、STUDIO IKKYU、PROFESSIONAL MEDIA CORPORATION、光陽ラオス株式会社、京光商事株式会社、川崎信用金庫
株式会社ツムラ、豊田通商株式会社、株式会社JALUX、川崎アゼリア株式会社、松澤地所株式会社、株式会社赤坂総合事務所
タカネ電機株式会社、株式会社トーキンオール、株式会社ニッセン・ワイケイ、海外投資を楽しむ会、株式会社永星通商
国際協力NGO・IV-JAPAN、高島孝子、野中茂、平尾光司、遠藤勝利、ソムチャンマボン 大介、クラウドファンディング支援者のみなさま

【製作】 ジャパンーラオス・クリエイティブ・パートナーズ

製作の経緯

2014年5月 構想・プロジェクト始動
ジャパンーラオス・クリエイティブ・パートナーズ 設立
(代表: 森卓 副代表: 高橋世織)
2015年8月 日本ラオス映画委員会 設立
(委員長: 山田長満 副委員長: 佐々木史朗)
2015年11月 オール・ラオスロケ (3週間)
2016年3月 ラオス完成披露試写会
(共催: 在ラオス日本大使館 協力: ラオス情報文化観光省)
2016年5月 日本完成披露試写会 (共催: 川崎市アートセンター
後援: 川崎商工会議所 協力: 日本映画大学、日本ラオス映画委員会)



本プロジェクトはラオスに15年暮らした発起人の森がラオスへの恩返しとして日本ラオスの絆がより深まっていくよう想いを込めて始めました。

森卓
発起人/プロデューサー
ジャパンーラオス・クリエイティブ・パートナーズ代表